

配 付 資 料

「地域住民の力を軸とした森林保全」シンポジウム

JICA 森林・自然環境協力部 森林環境協力課

- 会場・実施日・時間：
国際協力事業団 1 1 階会議室 A-H
2002 年 3 月 27 日 13:30 – 17:40

当事業団では「地域住民の力を軸とした森林保全」を目指した協力をケニア、タンザニア、ネパール等で実施してまいりました。 昨今、社会経済環境や援助ニーズが複雑化する中で、森林保全協力事業をめぐっても一層効果的な事業実施が求められており、「地域住民の力を軸とした」協力は更なる発展が望まれております。

森林・自然環境協力部では、当該協力の理念・手法や問題点を整理し、より効果的な案件形成およびプロジェクト運営に反映させることを目的として、公開シンポジウムを開催いたします。当日は、現在実施中の当事業団のプロジェクト（セネガル総合村落林業開発計画、ネパール村落振興・森林保全計画 2、ラオス森林保全・復旧計画 2、パナマ運河流域管理計画）に加え、NGO、大学におけるプロジェクトや研究の発表を予定しております。それらの発表を通して、森林保全と「地域住民」を中心とした協力について考えていきたいと思っております。

議事次第

- 13時30分 ● 開会
 ● 開会挨拶 国際協力事業団 理事 鈴木 信毅
 ● 来賓挨拶
 外務省経済協力局技術協力課 企画官 乳井 忠晴
 農林水産省林野庁森林整備部計画課海外林業協力室 室長 金澤 弘行
- 13時45分 ● プロジェクト事例発表（各15分）
 1. ネパール村落振興・森林保全計画Ⅱの事例から
 JICA/ネパール村落振興・森林保全計画Ⅱ チーフアドバイザー 桂川 裕樹
 2. ラオス森林保全・復旧計画Ⅱの事例から
 JICA/ラオス森林保全・復旧計画Ⅱ チーフアドバイザー 圓谷 浩之
 3. パナマ運河流域保全計画の事例から
 JICA/パナマ運河流域保全計画 チーフアドバイザー 阿久津 雄三
 4. セネガル総合村落林業開発計画の事例から
 JICA/セネガル総合村落林業開発計画 チーフアドバイザー 野田 直人
 5. ラオス農林複合プロジェクト事例から
 日本国際ボランティアセンター 副代表 磯田 厚子
 6. 森林管理と参加を考える3つの視点
 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 助教授 佐藤 仁
- 15時30分 ● 休憩（20分）
- 15時50分 ● 総合コメント（10分）
 アジア経済研究所 経済協力研究部 主任研究員 佐藤 寛
- 16時00分 ● パネルディスカッション（50分）
 ○ これからの「地域住民の力を軸とした森林保全」のあり方
- パネリスト（順不同）： JICA/ネパールチーフアドバイザー 桂川 裕樹
 JICA/ラオスチーフアドバイザー 圓谷 浩之
 JICA/パナマチーフアドバイザー 阿久津 雄三
 JICA/セネガルチーフアドバイザー 野田 直人
 日本国際ボランティアセンター 磯田 厚子
 東京大学大学院 助教授 佐藤 仁
 アジア経済研究所 主任研究員 佐藤 寛
- 司会進行役： JICA 森林・自然環境協力部 森林環境協力課 課長 吉浦 伸二
- 16時50分 ● 会場と意見交換（40分）
- 17時30分 ● 閉会

プロジェクト概要表

および

活動コンセプト

- | | |
|-----------------------------------|------------|
| 1. ネパール村落振興・森林保全計画Ⅱ (JICA) |配布-4 |
| 2. ラオス森林保全・復旧計画Ⅱ (JICA) |配布-15 |
| 3. パナマ運河流域保全計画 (JICA) |配布-26 |
| 4. セネガル総合村落林業開発計画 (JICA) |配布-34 |
| 5. ラオス農林複合プロジェクト (日本国際ボランティアセンター) |配布-43 |

1. ネパール村落振興・森林保全計画フェーズ2 (JICA)

プロジェクト概要

協力期間	1999年7月16日～2004年7月15日（5年間）
派遣専門家	(1) チーフアドバイザー 1名（全期間） (2) 業務調整 1名（全期間） (3) 社会・ジェンダー 1名（全期間） (4) 村落振興 1名（全期間） (5) 流域管理 1名（全期間） (6) JOCVチーフアドバイザー 派遣期間 1999年10月～2001年10月
案件実施の社会的背景および協力開始の経緯	<p>世界最貧国のひとつであるネパールの山間地域においては、急峻な地形や多雨等から自然災害多発地域であることに加え、貧困や人口増加に起因する森林の収略的利用や過度の農地転用が進み、これらに起因する土壌浸食や河川災害が発生する等、典型的な悪循環が生み出されている。</p> <p>ネパール政府の予算・能力の限界や、山間地域の劣悪な交通・通信環境を踏まえれば、地域住民の自助能力を基本としてこれらの課題に対応せざるを得ないところであるが、担い手たる住民は絶対的貧困から資源の収奪的利用に追い込まれている。したがって「住民の生活向上とともに（それを通じて）森林の状況も改善される」というような、助走を長く取った総合的なアプローチが必要である。</p> <p>こうした背景を踏まえたネパール王国政府からの要請を受け、「村落振興を通じた森林保全」を指針として、1994年7月から5年間にわたり、プロジェクト方式技術協力「ネパール村落振興・森林保全計画（第1フェーズ）」を青年海外協力隊チーム派遣「緑の推進協力プロジェクト」とともにパッケージとして実施。社会林業の枠内にとどまらない幅広い活動を展開してきた。</p> <p>さらに、その成果を踏まえて他地域への展開を図るモデル開発のため、1999年7月から第2フェーズを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全管理上の理由により協力隊チーム派遣は中止されたが、カウンターパート、地方自治体、住民の参画を高め、プロジェクトの徹底した「ネパール化」を図ること等により、基本スキームを変えることなく対応してきた。
対象地域	ネパール カスキ郡及びパルパット郡の10村88集落（サイト地図参照）
プロジェクトのデザイン	(1) ターゲットグループ ネパール西部カスキ郡及びパルパット郡の住民、並びにカウンターパート (2) 上位目標 住民による村落資源管理を通じ、山間地域における貧困を緩和し自然環境を改善する。 (3) プロジェクト目標 ネパールの山間地域に適用可能な、持続的かつ公正な住民参加型村落資源管理モデルを開発する。

	<p>(4) 期待される成果</p> <ul style="list-style-type: none">○ プロジェクト対象村落の住民が次の活動のための能力を獲得する。<ul style="list-style-type: none">a. 組織の設立及び運営b. 持続的かつ公正な村落資源管理に係る計画・実行・モニタリング及び評価。○ カウンターパートが次の活動のための能力を獲得する。<ul style="list-style-type: none">c. 流域管理見通し（図2参照）の策定d. 開発されるモデルを適用した、他地域での住民参加型村落資源管理プロジェクトの実施 <p>(5) 主な活動の要約</p> <p>上記(4)a.～c.を実施しつつ、d.を支援</p>
相手国機関	森林土壌保全省 土壌保全流域管理局 (現場にあっては、カスキ郡及びパルバット郡の土壌保全事務所)